

下羽鳥地区 土地改良事業計画書

農山村地域復興基盤総合整備事業(農地整備事業)

福 島 県

目 次

<p>第1章 目 的 1</p> <p>第2章 地域及び地積 1</p> <p> 第1節 地 域 1</p> <p> 第2節 地 積 1</p> <p>第3章 現 況 2</p> <p> 第1節 気象 2</p> <p> 1 一般気象 2</p> <p> 2 特殊気象 2</p> <p> 3 海象 2</p> <p> 第2節 土地状況 3</p> <p> 1 地形、土壌および侵食の程度 3</p> <p> 2 土地分類 3</p> <p> 3 土地利用の状況 4</p> <p> 4 土地所有の状況 4</p> <p> 第3節 水利状況 5</p> <p> 1 用水状況 5</p> <p> 2 排水状況 8</p> <p> 3 河川状況 10</p> <p> 第4節 道路概況 11</p> <p> 1 道路状況 11</p> <p> 2 主要道路一覧表 13</p> <p> 第5節 地域農業の概況 13</p> <p> 1 産業別就業人口 13</p> <p> 2 経営耕地広狭別農家数及び耕地の分散状況 並びに専業別農家数 14</p> <p> 3 動力農機具及び主要家畜頭数 14</p> <p> 4 主要作物作付状況 15</p> <p> 5 農業の動向 16</p>	<p> 第6節 地域環境の概況 16</p> <p>第4章 一 般 計 画 17</p> <p> 第1節 事業計画の要旨 17</p> <p> 1 要 旨 17</p> <p> 2 事業別面積 17</p> <p> 第2節 営農計画及び土地利用計画 18</p> <p> 1 営農計画の概要 18</p> <p> 2 土地利用区分 18</p> <p> 3 作付方式 19</p> <p> 4 生産計画 20</p> <p> 5 労働改善計画 21</p> <p> 6 級地別土地利用区分 22</p> <p> 7 土地配分計画 22</p> <p> 第3節 用水計画 22</p> <p> 1 計画基準年 22</p> <p> 2 計画かんがい方式 22</p> <p> 3 計画用水系統 22</p> <p> 4 計画用水量 24</p> <p> 5 水源計画 25</p> <p> 第4節 排水計画 27</p> <p> 1 計画基準雨量 27</p> <p> 2 計画排水方式 27</p> <p> 3 計画排水系統 27</p> <p> 4 計画排水量 29</p> <p> 5 排水対策 29</p> <p> 6 たん水検討 30</p> <p> 第5節 道路計画 31</p>
--	---

1	道路及び索道	31	5	その他かんがい施設	37
2	路線配置図	31	第2節	排水施設	37
第6節	農用地造成計画	33	1	排水水門	37
1	農用地造成計画	33	2	排水機	37
2	土壌改良	33	3	排水路	38
第7節	洪水調節計画	33	4	その他排水施設	38
1	計画基準雨量	33	第3節	道路及び索道	38
2	計画洪水量及び調節量	33	1	道路	38
3	貯水池	33	2	索道	39
4	洪水調節検討	33	第4節	農用地造成	39
5	管理計画	33	1	農用地造成	39
第8節	干拓計画	33	2	土壌改良	39
第9節	農用地整備計画	34	第5節	洪水調節施設	39
1	区画整理	34	1	貯水池	39
2	暗渠排水	36	2	頭首工及び導水路	39
3	客土	36	第6節	干拓施設	39
4	農地保全	36	1	堤防	39
第10節	老朽ため池改修計画	36	2	潮止め	39
1	洪水吐改修計画	36	3	付属施設	39
2	堤体補強計画	36	4	埋立	39
3	取水施設改修計画	36	第7節	農用地整備施設	40
第5章	主要工事計画	37	1	区画整理	40
第1節	用水施設	37	2	暗渠排水	41
1	貯水池	37	3	客土	41
2	頭首工	37	4	除礫	41
3	揚水機	37	5	農地保全	41
4	用水路	37	第8節	老朽ため池改修施設	41

1	貯水池	41	第11章	効用	48
2	堤体補強施設	41	第12章	関連する事業	48
第6章	附帯工事計画	42	第13章	現況・計画図面	48
第7章	工事の着手及び完了の予定時期	42	1	計画一般図	49
第8章	環境との調和への配慮	42			
1	配慮創造の区分	42			
2	本地区で配慮すべき動植物	42			
3	環境創造の方法	42			
第9章	換地計画の概要	43			
第1節	換地計画を作成する上での基本的な考え方	43			
第2節	換地区の設定	43			
1	換地区の名称、所在、面積	43			
2	換地区を設定する理由	43			
第3節	換地計画樹立の基本方針	43			
1	従前の土地の地積基準	43			
2	用途別予定地積	44			
3	農用地集団化の方針	44			
4	非農用地の換地方法	45			
第4節	土地の評価及び清算の方法	45			
1	評価の方法	45			
2	清算の方法	45			
第5節	換地計画樹立の年度計画	46			
第6節	換地処分の特則	46			
第10章	事業費の総額及び内訳	47			

第1章 目 的

本地区は、双葉町の西部に位置し、地区を東西に縦走する県道井出・長塚線及び二級河川戎川に展開する圃区を中核に、北方から形成される水田地帯である。現況耕地は未整備にて、概ね10a区画程度となっているが自己整理も多く見受けられ20a程度を有する耕地もある。農道は2.0mと幅員が狭く、用排水路は兼用かつ素堀のため、施設の維持管理に多大な労力を費やし、農業基盤としての圃場条件は極めて低い状況にて農業経営が行われている。

よって、本事業により区画の整理を行うとともに道路の整備、用排水路の分離・装工により耕地の汎用化を図り、併せて育成すべき経営体（生産法人）を中核とした農地の集団化・利用集積を一体的に実施するものである。以て、土地利用型農業を基盤とした、機械の大型化と効率的な運行、高生産性かつ効率的な営農を実現し、地域農業の振興・発展に寄与するものである。

第2章 地域及び地積

第1節 地 域

(第1表)

地 域
福島県双葉郡双葉町下羽鳥地内 外

第2節 地 積

(令和7年3月現在) (第2表)

市町村名 \ 現況地目	田 (ha)	畑 (ha)	原 野 (ha)	山 林 (ha)	そ の 他 (ha)	計 (ha)	備 考
双 葉 町	33.1	0.8	0.0		3.0	36.9	
計	33.1	0.8	0.0		3.0	36.9	

第3章 現 況

第1節 気 象

1 一般気象

(第3表-1)

観測所名	浪江観測所	かんがい期	非かんがい期	計	備考
観測期間	H26年～R5年	4月～9月	9月～4月		
平均気温		21.0℃	9.2℃	13.5℃	
降水量	平均	646.5 m/m	781.5 m/m	1,428.0 m/m	
	基準年	441.6 m/m	630.6 m/m	1,072.2 m/m	1949年
降水日数	平均	55日	58日	113日	
	基準年	40日	52日	92日	1949年
根雪期間		—			
無霜期間		—			
最多風向		W	最大風速	16.3 m/S	左発生時期 2017年 4月19日

※根雪期間、無霜期間については、資料がないため記載省略。

2 特殊気象

(第3表-2)

観測所名 浪江観測所 観測期間	第1位			第2位			第3位			第4位			第5位			備考
	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	
H26年～R5年																
最大日雨量	301.0 ^{mm}	R1.10.12	1/31	285.0 ^{mm}	H8.9.22	1/23	265.0 ^{mm}	H18.10.6	1/15	243.0 ^{mm}	H21.10.8	1/10	226.0 ^{mm}	H12.7.8	1/7	
最大時間雨量		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
最大4時間雨量		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
最大連続降水量	483.0	H10.8.26 ～9.1	1/86	371.0	H18.10.5 ～10.7	1/14	343.5	H20.8.19 ～9.2	1/9	339.5	R1.10.11 ～10.14	1/8	324.5	H27.9.6 ～9.11	1/6	
最大連続旱天日数	40日	H8.5.13 ～6.21	1/27	30日	H24.7.9 ～8.7	1/9	23日	R2.4.26 ～5.18	1/4	22日	H13.7.20 ～8.10	1/3	22日	H22.8.15 ～9.5	1/3	

3 海象

該当なし省略

第2節 土地状況

1 地形、土壌および侵食の程度

(第4表-1-1)

地目	田						畑その他							受益地標高		備考		
	1 以下	1 ~	1 ~	1 ~	1 ~	1 以上	計	3° 以下	3° ~	8°~15°			15° ~	20° 以上	計		最高 (m)	最低 (m)
傾斜区分	1,000	1,000	100	100	20	20	11.5	11.5		8° 以下	10° ~	8° ~	15° ~	20° 以上				
面積 ha		33.1					33.1	0.8							0.8	20.1	12.7	
比率 %		100					100	100							100			

(第4表-1-2)

項目 土壌統(区)名	土 壤 統 (区) 区 分 一 覧 表										面積	備考
	土 壤 断 面								堆積様式	母 材		
	色	腐 植	礫 層	酸 化 沈 澱 物	土 性			泥炭層、黒 泥層および グライ層				
					表 土 (一層)	下 層 土 二 層	三 層					
グライ土強粘土構造型	暗 褐	な し	な し	な し	LiC	SCL	LC	な し	水 積	非固結水成岩	18.9	E-40
グライ土壌粘土型	黄 褐	な し	な し	な し	LiC	SCL	LC	な し	水 積	非固結水成岩	14.2	E-42
飯 崎 統	暗 褐	な し	な し	な し	LiC	HC	HC	な し	水 積	非固結水成岩	0.8	畑
合 計											33.9	ha

2 土地分類

該当なし省略

3 土地利用の状況

(令和7年3月現在)

(第4表-3)

土地利用別 市町村名	耕地								山 用 材 林 (ha)	林 薪 炭 林 (ha)	採 草 放 牧 地 (ha)	原 野 (ha)	そ の 他 (ha)	計 (ha)	備 考
	水 田 (ha)	普 通 畑 (ha)	牧 草 畑 (ha)	果 樹 園 (ha)	桑 園 (ha)	茶 園 (ha)	そ の 他 (ha)	樹 園 地 (ha)							
双葉町	33.1	0.8	-	-	-	-	-	-	-	-	0.0	3.0	36.9		
計	33.1	0.8	-	-	-	-	-	-	-	-	0.0	3.0	36.9		

4 土地所有の状況

(令和7年3月現在)

(第4表-4)

所有別 区分	個人有	土地改良区有	市町村有	国 県 有	計	備 考
面積 (ha)	33.9	0.0	3.0		36.9	
受益者数 (人)	64				64	
筆数 (筆)	360	1	146		507	
権利関係	70	1	1		72	
備考						

第3節 水利状況

1 用水状況

本地区の用水源は、国営かん排事業請戸川地区の受益となっており琵琶迫溜池から取水がメインであるが南側の団地についてはため池からかんがいされている。地区内の小用水路は土水路を主とし、水管理等に支障をきたしていたものと考えられる。東日本大震災以降は農業用水が通水されていない状況である。

(1) 用水系統

別紙 現況用水系統模式図 参照

現況用水系統模式図

国营請戸川地区

大柿ダム 請戸幹線導水路

1,546
2,814
0.864

69.4
0.209
0.164

地区内
30.9
0.116 0.116 0.000
0.093 0.093 0.000

地区外
38.5
0.093 0.093 0.000
0.071 0.071 0.000

双葉用水路
(羽鳥)

請戸右岸幹線用水路

二級河川 戎川

地区外
5.5
0.014 0.014 0.000
0.015 0.015 0.000

地区外
1.3
0.027 0.027 0.000
0.028 0.028 0.000

地区内
1.5
0.006 0.006 0.000
0.005 0.005 0.000

地区内
0.7
0.003 0.003 0.000
0.002 0.002 0.000

7.0
0.020
0.020

山田迫溜池

2.0
0.030
0.030

川原迫第1溜池

凡 例

頭首工 (自然取水含む) 地区界

貯水池 本事業で施工

揚水機場 他事業又は既設利用

本地区分

(イ)
(ロ)
(ハ)
(ニ)
(ホ)

地区外分

(イ)
(ロ)
(ハ)
(ニ)
(ホ)

通水量 (イ) 面積 (イ) 面積
(ロ) 代播期 (ロ) 代播期
(ハ) 普通期 通水量 (ハ) 普通期 通水量
(ニ) 普通期 通水量 (ニ) 普通期 通水量
(ホ) 普通期 通水量 (ホ) 普通期 通水量

(イ) 路線名
(ロ) 面積
(ハ) 代播期所要水量
(ニ) 代播期利用可能量
(ホ) 普通期所要水量
(イ) 普通期利用可能量
(ハ) 不足量

(2) 用水施設

(7) 取水方法一覧表

(第5表-1)

項目 施設名	かんがい面積						計		水利権		慣行水利権		延べ取水量	備考
	500ha以上		500ha~100ha		100ha未満		個所	ha	個所	m3/S	個所	m3/S	m3/S	
	個所	ha	個所	ha	個所	ha								
貯水池					2	2.2	2	2.2					0.009	
井堰														
自然取入口														
揚水機														
その他					1	30.9							0.116	
計					3	33.1	2	2.2					0.125	

(イ) 改修を要する一覧表

該当なし省略

(3) 用水に関する被害状況

(7) 用水不足による被害状況

該当なし省略

(イ) その他の被害状況

該当なし省略

(4) ため池決壊の場合の想定被害状況

該当なし省略

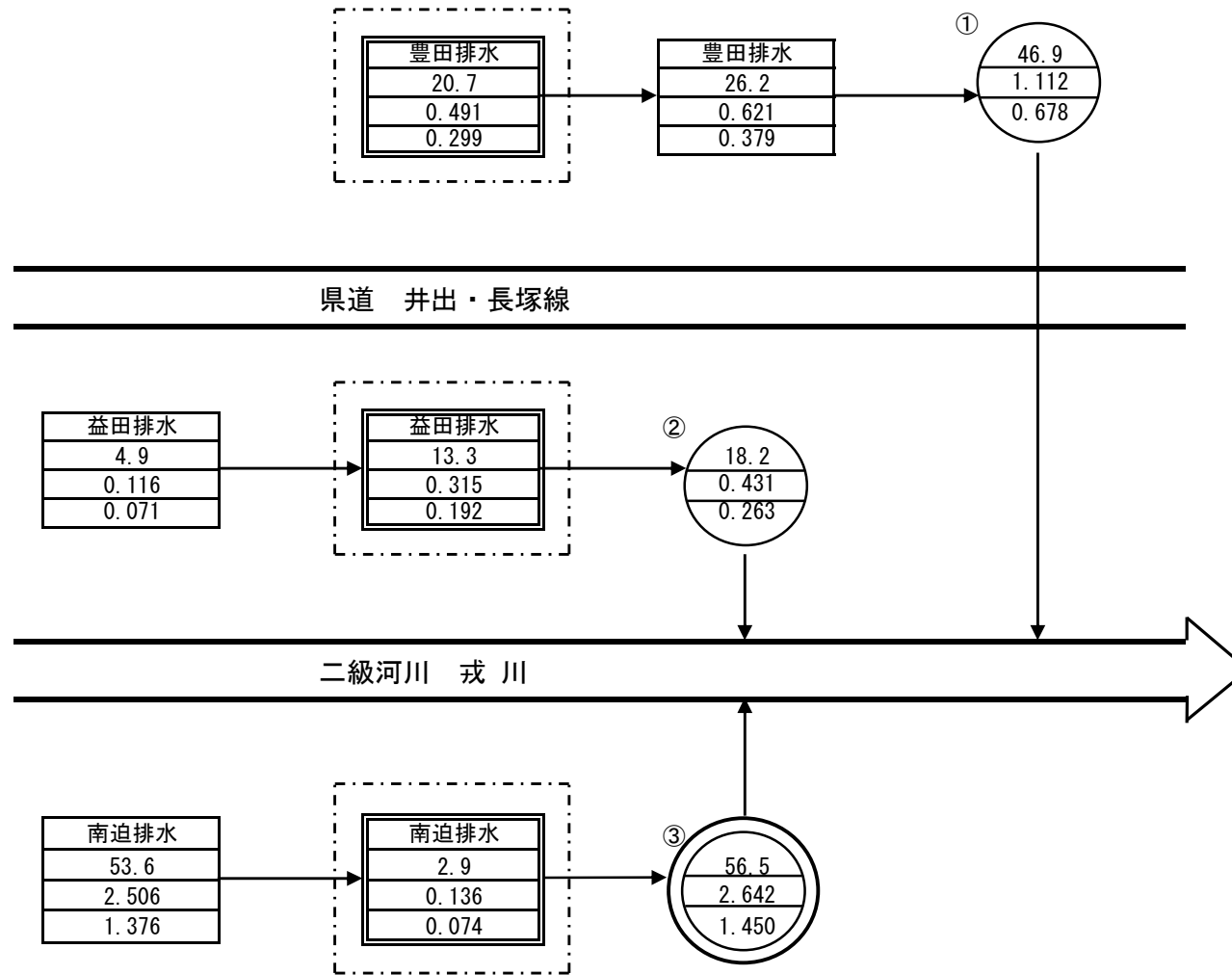
2 排水状況

本地区の排水は、自然流下により地区外排水路を経て、二級河川戎川（前田川水系）へ排除される。地区内の水路は、断面狭小且つ素堀水路のため、田面排水不良の要因ともなっている。

(1) 排水系統

別紙 現況排水系統模式図 参照

現況排水系統模式図



凡 例

- 地区界
- 本事業で施工
- 他事業又は既設利用
- ⊙ 揚水機場

4時間雨量4時間排除

面積
流下量1/10
流下量1/2

合理式

面積
流下量1/10
流下量1/2

本地区

路線名
面積
排水量1/10
排水量1/2

地区外

路線名
面積
排水量1/10
排水量1/2

(2) 排水施設

(7) 排水方法一覧表

(第5表-4)

施設名	項目	排水面積						計		排水慣行 (m ³ /s)	現況排水能力 (m ³ /s)	備考
		500ha以上		500ha~100ha		100ha未満		箇所	ha			
		箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha					
自然	排水路					3	121.6	3	121.6	4.185	4.185	
	水門											
機械	排水機											
	水門及び排水機											
	排水路及び排水機											
合計					3	121.6	3	121.6	4.185	4.185		

(1) 改修を要する施設の一覧表

該当なし省略

(3) 排水に関する被害状況

該当なし省略

3 河川状況

(1) 河川状況

該当なし省略

(2) 洪水に関する被害状況

該当なし省略

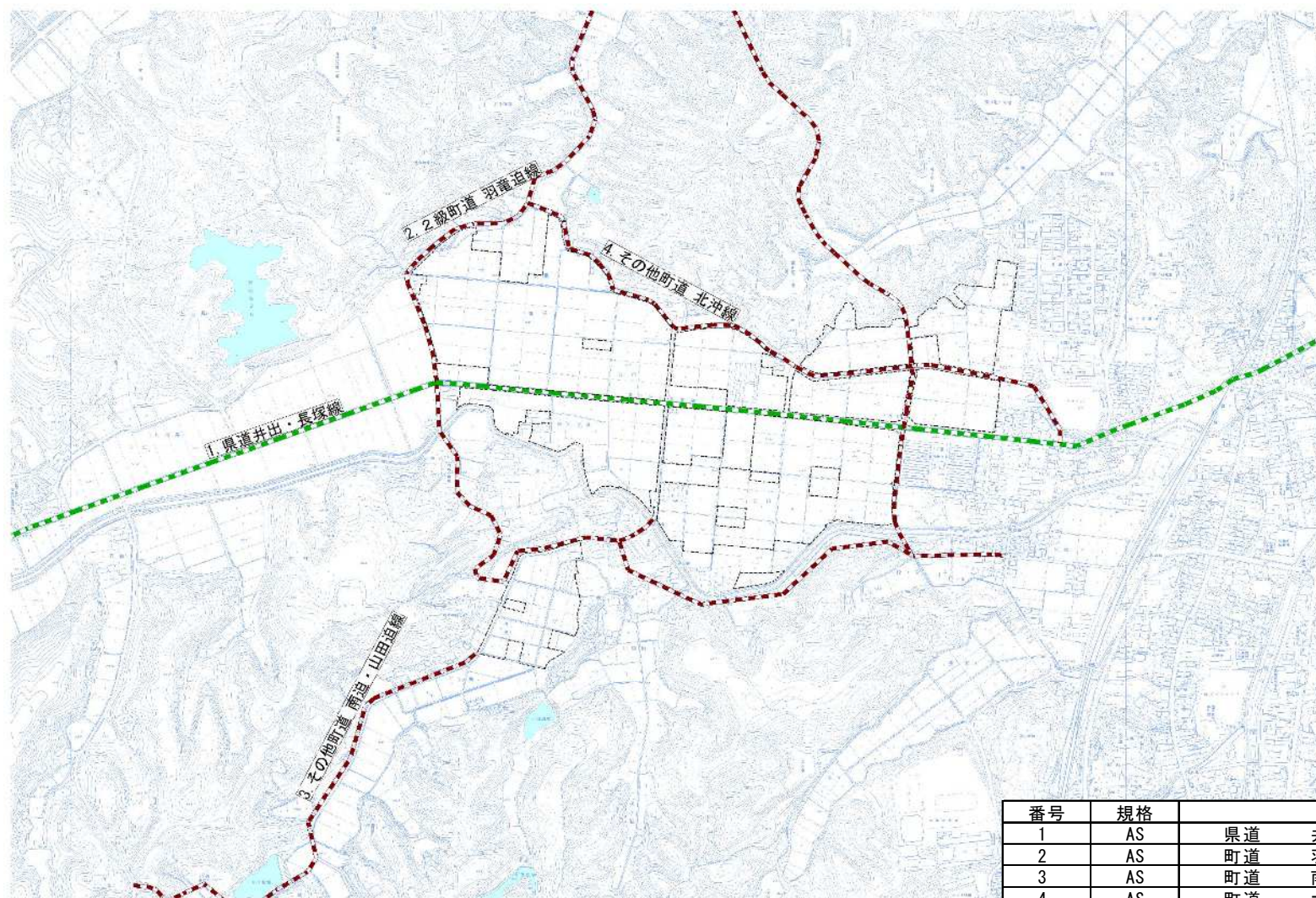
第4節 道路概況

本地区の道路状況は、東西に県道井出・長塚線が縦走しており、これに接続する他の町道、農道が配置されている。しかしながら、これらの基幹的道路に接続される地区圃場内農道は、幅員が狭小のため営農に多大な支障を来している。

1 道路状況

別紙 現況道路網図 参照

現況道路網図



番号	規格	名称	
1	AS	県道	井出・長塚線
2	AS	町道	羽竜迫線
3	AS	町道	南迫・山田迫線
4	AS	町道	北沖線

2 主要道路一覧表

(第6表)

番号	路線名	管理区分別	延長 (m)	巾員 (m)		構造	改修の要否	備考
				全	有効			
1	県道 井出・長塚線	福島県	-	-	-	アスファルト舗装	否	
2	町道 羽竜迫線	双葉町	-	-	-	〃	〃	
3	町道 南迫・山田迫線	〃	-	-	-	〃	〃	
4	町道 北沖線	〃	-	-	-	〃	〃	
計								

第5節 地域農業の概況

1 産業別就業人口 (国勢調査H22による)

(平成22年10月現在)

(第7表-1)

項目	総 数 (人)	農 業 (人)	林 業 (人)	漁 業 (人)	鉱 業 (人)	建 設 業 (人)	製 造 業 (人)	電 気 ガ ス 熱 (人)	供 給 水 道 業 (人)	運 輸 通 信 業 (人)	卸 売 小 売 業 (人)	飲 食 店 (人)	金 融 保 険 業 (人)	不 動 産 業 (人)	サ ー ビ ス 業 (人)	公 務 (人)	そ の 他 (人)	備 考
市町村名																		
双葉町	2,999	257	0	3	1	626	285	381	25	383	36	34	284	134	550			
計	2,999	257	0	3	1	626	285	381	25	383	36	34	284	134	550			
比率 (%)	100	9	0	0	0	21	10	13	1	13	1	1	10	5	18			

※政府統計e-stat「平成22年国勢調査就業状態等基本集計(総務省統計局)」による。

2 経営耕地広狭別農家数及び耕地の分散状況並びに専業別農家数

(2010年農業センサスによる)

(第7表-2)

区分 市町村名	経営農家数 総数(経営体)	経営耕地広狭別農家数(経営体)											自給的農家 (戸)	1経営体当たり平均農用地面積(ha)					主副業別経営体数 (経営体)			
		例外規定の適用を受けるもの	0.3 ha未満	0.3 ha以上0.5 ha未満	0.5 ha以上1.0 ha未満	1.0 ha以上1.5 ha未満	1.5 ha以上2.0 ha未満	2.0 ha以上3.0 ha未満	3.0 ha以上5.0 ha未満	5.0 ha以上10.0 ha未満	10.0 ha以上20.0 ha未満	20.0 ha以上		田	畑	樹園地	小計	草地	計	主業	準主業	副業
双葉町	380			49	96	66	71	54	22	18	2	2		0.59	3.51	9.00	13.10	0.91	14.01			
比率(%)	100			13	25	17	18	14	6	5	1	1		4	25	64	94	6	100			

※2011年以降は震災の影響により統計指標なし

3 動力農機具及び主要家畜頭数

(2010年農業センサスによる)

(第7表-3)

項目 市町村名	動力農機具						主要家畜								備考	
	トラクター		コンバイン		田植機		乳用牛		肉用牛		豚		採卵鶏			ブロイラー
	数量 (台)	経営体数 (経営体)	数量 (台)	経営体数 (経営体)	数量 (台)	経営体数 (経営体)	頭数 (頭)	経営体数 (経営体)	頭数 (頭)	経営体数 (経営体)	頭数 (頭)	経営体数 (経営体)	羽数 (100羽)	経営体数 (経営体)	羽数 (100羽)	経営体数 (経営体)
双葉町	383	308	103	98	241	232			193	19			-	1		
100経営体当たり数量(台、頭、羽)	124		105		104				1,016							
利用経営体数の割合(%)																

※100戸当たり数量=台(頭)数/農家総戸数、利用戸数の割合=戸数/総戸数

※2011年以降は震災の影響により統計指標なし

4 主要作物作付状況

(平成20年～21年 第56次福島農林水産統計年報による) (R7年3月現在) (第7表-4)

市 町 村 名		双葉町		計	平 均	作付率	備 考
総 耕 地 面 積 (ha)		5,860					
総 本 地 面 積 (ha)		5,650					
区 分		作 付 面 積	単 位 面 積	作 付 面 積	単 位 面 積	(%)	
作物名		(ha)	当 たり 収 量	(ha)	当 たり 収 量		
			(kg/10a)		(kg/10a)		
田	水 稲	3,750	544	3,750	544	98	
畑	野 菜	47	3,324	47	3,324	1	
	豆 類	31	127	31	127	1	
	雑 穀	15	53	15	53	0	
	飼 料 作 物	0	—	0	—	0	
	そ の 他			0	0	—	
樹園地	果 樹	—		—		—	
	桑	—		—		—	
計		3,843		3,843		100	※市町村別統計値のある作物を記載。
市町村別延べ作付率 (%)		—		—			

5 農業の動向

(H27年2月現在)

(第7表-5)

項目 区分	農 家		土 地		主 要 作 物			大 家 畜			動 力 農 機 具			地 域 指 定 等	備 考		
	B	A	B	A	作 物 名	B	A	家 畜 名	B	A	農機具名	B	A				
変化の状況 (C年を100とする指数)	総農家数	94	380	耕地	191	-	水 稻	95	-	乳 用 牛	87	-	トラクター	108	-	農業振興地域整備計画 あり 果樹園経営計画 なし 酪農・肉用牛経営改善計画 なし 都市計画区域マスタープラン あり その他 過疎地域自立促進	A: 2010年農業センサス (平成22年) B: 2005年農業センサス (平成17年) C: 2000年農業センサス (平成12年)
	主 業 農 家 数	124	46	田	101	-	豆 類	20	-	肉 用 牛	51	-	コンバイン	114	-		
	準 主 業 農 家 数	65	127	畑	87	-	麦 類	226	-	豚	37	-	田 植 機	110	-		
	副 業 的 農 家 数	87	207	樹園地	64	-	野 菜	80	-	採 卵 鶏	-	-					
	農 業 従 事 者 数	93	-				花 き 類 木 目	-	-	ブロイラー	-	-					
	社会経済的变化			同左		同左			同左			同左					

第6節 地域環境の概況

本地区は、双葉町の中心地より西側に位置し、地区中心に戒川が流れる水田畑作地帯である。

本地域における自然環境は、ドジョウ、モノアラガイが確認されている。このような生態系を保全するため、環境との調和に配慮した農業生産基盤の整備を図る必要がある。

第4章 一般計画

第1節 事業計画の要旨

1 要旨

標準区画は農地集積に伴い大型機械による営農を考慮しつつ地形状況に配慮し、100m×50mの50a区画を標準とする。
 水路については、用排水路分離を基本に全線装工とする。用水路についてはパイプライン方式を採用する。
 排水路については明渠による自然排水方式とし、排水フリューム構造とする。
 道路計画については、県道や町道との連絡と農業機械の効率的運行を考慮した配置や構造とする。

2 事業別面積

(第8表)

事業目的 \ 土地利用区分	水田 (ha)	輪換耕地 (ha)	普通畑 (ha)	牧草地 (ha)	果樹園 (ha)	計 (ha)
区 画 整 理			31.4			31.4
暗 渠 排 水 工			(31.4)			(31.4)
合 計			31.4			31.4

※暗渠排水工は、区画整理の内数として()で記載。

第2節 営農計画及び土地利用計画

1 営農計画の概要

経営方式

畑作物

経営組織及び作業体系

農業生産法人「下羽鳥・長塚生産組合」を設立し農地集積、低コスト生産に向けた取り組みを実施する。また、相双農林事務所を始め関係団体で組織する「農用地利用集積推進委員会」の支援の下、計画の円滑な達成に取り組んでいく。

2 土地利用区分

(第9表-1)

土地利用区分	水田 (ha)	輪換耕地 (ha)	普通畑 (ha)	牧草地 (ha)	果樹園 (ha)	桑園 (ha)	小計 (ha)	原野 (ha)	山林 (ha)	その他 (ha)	計 (ha)	備考
現況	33.1		0.8				33.9	0.0		3.0	36.9	
計画			31.4				31.4			5.5	36.9	

4 生産計画

(第9表-3)

項目 土地 利用区分	作物名	作付面積 (ha)			作付率 (%)			単位面積当たり収量 (kg/10a)			生産量 (t)			同左生産量増減 の 内 (t)		備考
		現況	計画	増減	現況	計画	増減	現況	計画	増減	現況	計画	増減	面積増減	単位面積当たり 収量増加	
		輪換田	水稲	32.4		△ 32.4	98		505	505		163.6		△ 163.6	△ 163.6	
	小計	32.4		△ 32.4	98					163.6		△ 163.6	△ 163.6			
普通畑	ブロッコリー		4.3	4.3		13	872	872			37.5	37.5	37.5			
	たまねぎ		4.3	4.3		14	1,935	1,935			83.2	83.2	83.2			
	じゃがいも		4.3	4.3		14	1,668	1,668			71.7	71.7	71.7			
	大豆		18.5	18.5		59	107	107			19.8	19.8	19.8			
	自己保全	0.8		△ 0.8	2											
		小計	0.8	31.4	30.6	2	100					212.2	212.2	212.2		
合計		33.2	31.4	△ 1.8	100	100				163.6	212.2	48.6	48.6			

5 労働改善計画

(第9表-4)

土地 利用区分	項 目	作 物 名	作 付 面 積	単 位 面 積 当 たり 労 働 投 下 量 (hr/h a)				備 考
				区 分	現 況	計 画	増 減	
田			ha	機 械 力				
				人 力				
			ha	機 械 力				
				人 力				
畑	ブ ロ ッ コ リ ー 生産法人 (30a・畑)	4.3	ha	機 械 力	149.4	99.1	△ 50.3	
				人 力	703.2	652.9	△ 50.3	
	た ま ね ぎ 生産法人 (30a・畑)	4.3	ha	機 械 力	85.9	54.1	△ 31.8	
				人 力	2037.0	1667.0	△ 370.0	
	じ や が い も 生産法人 (30a・畑)	4.3	ha	機 械 力	140.0	84.3	△ 55.7	
				人 力	412.4	281.8	△ 130.6	
	大 豆 生産法人 (50a・畑)	10.5	ha	機 械 力	104.5	139.8	35.3	
				人 力	119.6	154.9	35.3	
	大 豆 生産法人 (30a・畑)	8.0	ha	機 械 力	104.5	155.6	51.1	
				人 力	119.6	170.7	51.1	
	計		31.4					

6 級地別土地利用区分 該当なし省略

7 土地配分計画 該当なし省略

第3節 用水計画

1 計画基準年

1949年 国営かんがい排水事業 請戸川地区に準じる。

2 計画かんがい方式

冷水温障害防止と節水を考慮し、所定量を給水した後、田面貯留しておく、湛水かんがい方式とする。

かんがい期間	4月26日	～	9月5日	133 日間
(代掻き期間)	4月26日	～	5月10日	15 日間)

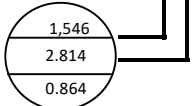
3 計画用水系統

別紙 計画用水系統模式図 参照

計画用水系統模式図

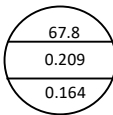
国营請戸川地区

大柿ダム 請戸幹線導水路



請戸右岸幹線用水路

双葉用水路 (羽鳥)



地区内
29.3
0.098
0.079

地区外
38.5
0.111
0.085

二級河川 戎川

地区外
5.5
0.015
0.016

地区外
1.3
0.028
0.028

地区内
1.4
0.005
0.004

地区内
0.7
0.002
0.002



山田迫溜池



川原迫第1溜池

凡 例

頭首工 (自然取水含む) 地区界

貯水池・調整池 本事業で施工

揚水機場 他事業又は既設利用

本地区分 地区外分

路線名	面積	代掻期粗用水量	普通期粗用水量

路線名	面積	代掻期粗用水量	普通期粗用水量

通水量 (f) 面積 (f) 代掻期通水量 (D) 普通期通水量 (n)

還元水量 (f) 面積 (f) 代掻期還元水量 (D) 普通期還元水量 (n)

4 計画用水量

(1) かんがい用水

(第10表-1)

系統名	項目	種別	面積 (ha)		水田かんがい			水田畑利用			畑地かんがい			その他		消費水量 (m ³ /S)	損失率 (%)	粗用水量		備考		
			事業名		普通期 計画平均 単位数 用水量 (mm/日)	代かき期 計画代か き単位数 用水量 (mm)	面 積 (ha)	一日当 たり計 画平 均かん 水 深 (mm/日)	平 均 間 断 日 数 (日)	面 積 (ha)	一日当 たり計 画平 均かん 水 深 (mm/日)	平 均 間 断 日 数 (日)	面 積 (ha)	計画平均 単位数 用水量 (mm/日)	面 積 (ha)			平	均		最	大
			計	計																		
					計	計	積	深	積	深	積	積	積									
	双葉用水路(羽鳥)	農業用水	29.3	29.3	20	110	29.3									代普	0.098 0.079	10	0.079	0.098		
	山田迫溜池	農業用水	1.4	1.4	20	110	1.4									代普	0.005 0.004	10	0.004	0.005		
	川原迫第1溜池	農業用水	0.7	0.7	20	110	0.7									代普	0.002 0.002	10	0.002	0.002		
	計		31.4	31.4			31.4									代普	0.105 0.085		0.085	0.105		

(2) 営農飲雑用水

該当なし省略

5 水源計画

(1) 水利用計画

(第10表-2)

項目 区分		消費水量	有効雨量	純用水量	粗用水量	現況利用可能水量			不足量		水源依存量		水源工種	備考
						水源名	取水地点 利用可能量	ほ場利用 可能量	純不足 水量	全不足 水量	水源名	水量		
		a (千m3)	b (千m3)	c=a-b (千m3)	$d = \frac{c}{(1-d')}$ (千m3)		e (千m3)	f (千m3)	g=c-f (千m3)	h=d-f (千m3)		(千m3)		損失率：d'
現況	代かき期	0.100		0.100	0.125	ため池 水路	0.193	0.125	-	-	ため池 水路	0.125	ため池 水路	20%
	普通期	0.080		0.080	0.100	"	0.171	0.100	-	-	"	0.100	"	20%
計画	代かき期	0.095		0.095	0.105	"	0.193	0.105	-	-	"	0.105	"	10%
	普通期	0.077		0.077	0.085	"	0.171	0.085	-	-	"	0.085	"	10%

(2) 用水対策

(7) 貯水池 該当なし省略

(イ) 井堰及び自然取入口 該当なし省略

(ウ) 揚水機 該当なし省略

(エ) 用水路

(第10表-6)

項目 名称	かんがい面積 (ha)	最大通水量 (m ³ /s)	延 長 (m)	構 造	備 考
小 用 水 路	3.9	0.001~0.139	1,795	BF水路	
管 水 路	31.4	0.001~0.101	2,493	塩ビ管	

(オ) その他の水源施設 該当なし省略

(3) 水質水温 該当なし省略

第4節 排水計画

1 計画基準雨量

最大日雨量 $R = 241\text{mm/day}$ (最大日雨量 $W = 1/10$ 年)
(浪江観測所の1994年～2023年の過去30年間の実測資料に基づき、岩井法による確率計算により処理した。)

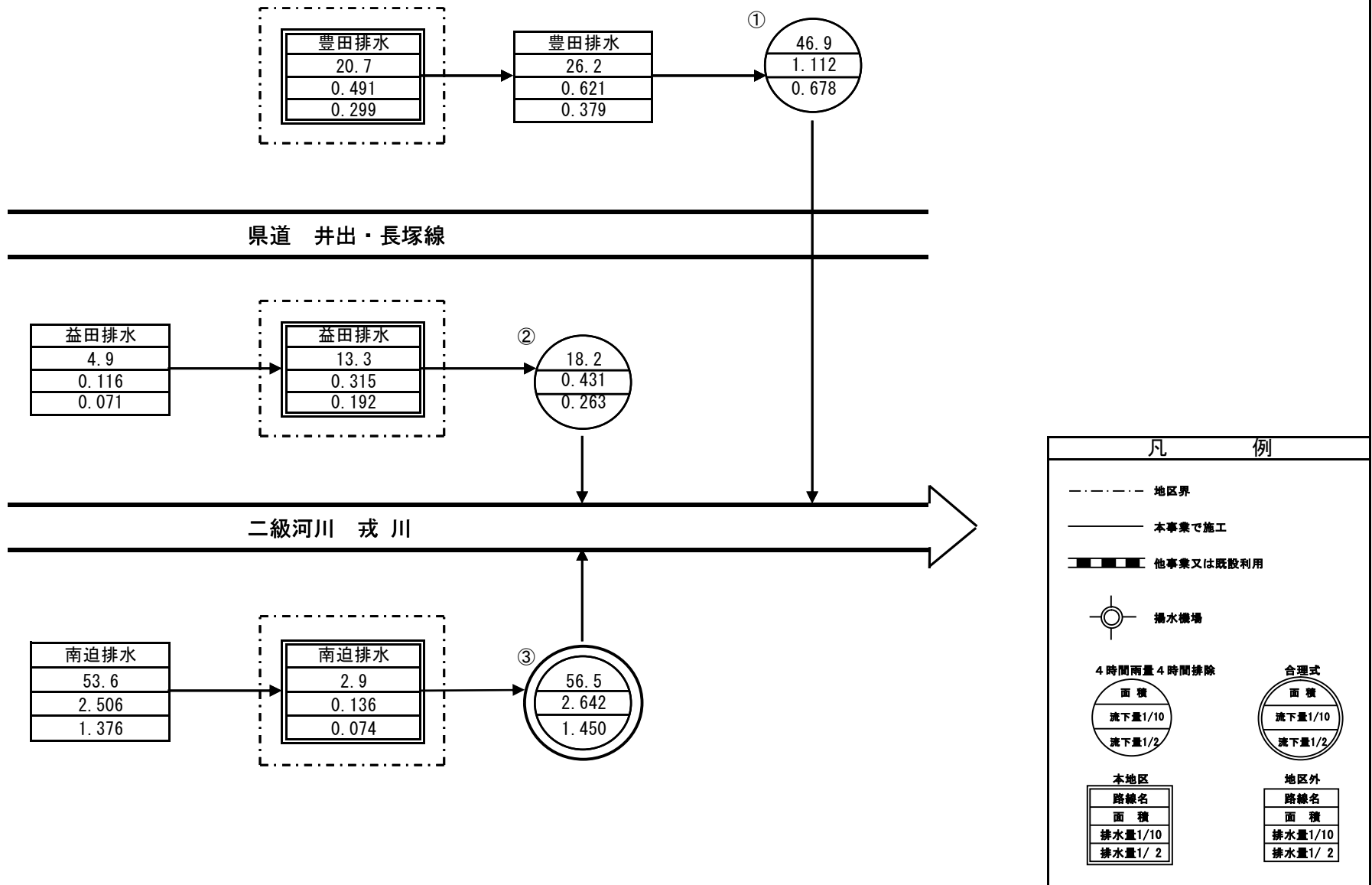
2 計画排水方式

地表水＝明渠（自然排水）

3 計画排水系統

別紙 計画排水系統模式図 参照

計画排水系統模式図



4 計画排水量

(第11表-1)

項目 排水系統名	受益面積 (ha)			流域面積 (km ²)		基準 雨量 (mm)	降雨による 直接単位 流出量 (m ³ /s/km ²)		基底流出量 (m ³ /s/km ²)		全排水量 (m ³ /s)			単位排水量 (m ³ /s/km ²)		備考
	事業名						山地	平地	山地	平地	山地	平地	山地	平地		
	農山村地域復興基盤総合整備事業 (農地整備事業)	地区外	計	自然排水	機械排水											
				山地	平地		山地	平地								
①	20.7	26.2	46.9		0.469	241	—	2.370	—	—		1.112		—	2.370	
②	13.3	4.9	18.2		0.182	241	—	2.370	—	—		0.431		—	2.370	
③	2.9	53.6	56.5		0.565	241	—	4.675	—	—		2.642		—	4.675	
計	36.9	84.7	121.6		1.216							4.185				

5 排水対策

(1) 排水水門 該当なし省略

(2) 排水機 該当なし省略

(3) 排水路

(第11表-4)

項目 名称	流域面積 (km ²)	受益面積 (ha)	計画排水量 (m ³ /s)	延長 (km)	構造	排水本川			備考
						名称	計画洪水量 (m ³ /s)	計画洪水位 (m)	
小排水路	0.182~0.565	36.9	0.007~1.281	5.621	WH排水溝	戎川			
計		36.9		5.621					

(4) その他

該当なし省略

6 たん水検討

該当なし省略

第5節 道路計画

地区内道路網の整備を図り農業機械の効率的利用を高めるとともに、集落と耕地の通作の円滑化を図り、農地流動化に寄与できる農道整備を目指す。

1 道路及び索道

(1) 道路

(第12表-1)

路線名	項目 全幅 (有効幅) × (m)	延長 (m)	構造	既設道路との関係	備考
① 支線道路	5.0 × (4.0)	4,711	敷砂利 (t=10cm)	ほ場内農道	
② 支線道路	3.0 × (2.0)	295	敷砂利 (t=10cm)	ほ場内農道	
③ 支線道路	5.0 × (4.0)	411	AS 舗装	ほ場内農道	既設利用
計		5,417			

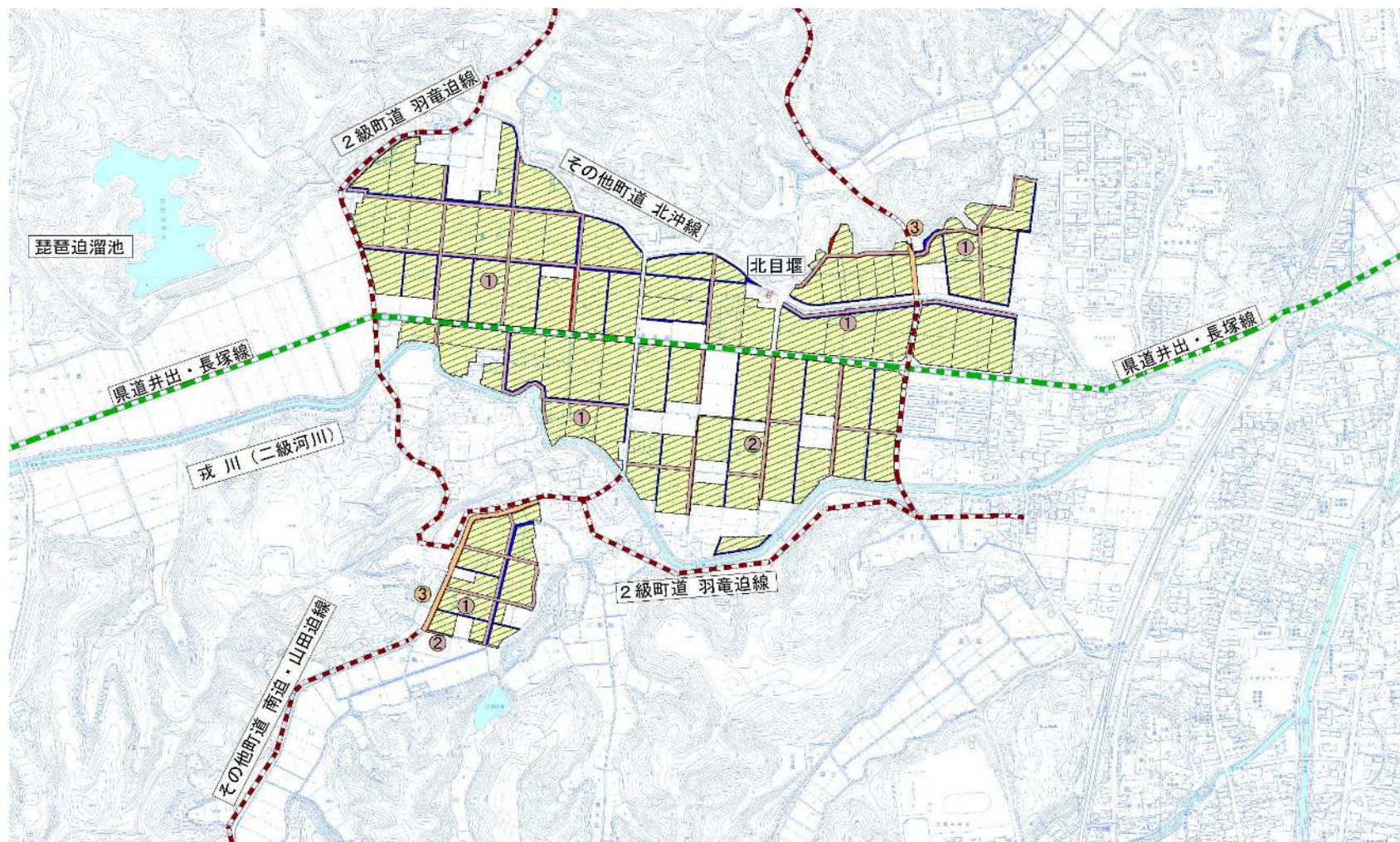
(2) 索道

該当なし省略

2 路線配置図

別紙 計画道路網式図 参照

計画道路網図



第6節 農用地造成計画

1 農用地造成計画

- (1) 農用地造成計画 該当なし省略
- (2) 末端道水路配置図 該当なし省略

2 土壌改良 該当なし省略

第7節 洪水調節計画

1 計画基準雨量 該当なし省略

2 計画洪水量及び調節量 該当なし省略

3 貯水池 該当なし省略

4 洪水調節検討

- (1) 河川改修計画との関係 該当なし省略
- (2) 洪水調節が下流に及ぼす影響 該当なし省略
- (3) 計画基準雨量以外の降雨についての検討 該当なし省略

5 管理計画

- (1) 管理機構 該当なし省略
- (2) ダム管理操作上の各種基準 該当なし省略
- (3) 洪水調節要領 該当なし省略

第8節 干拓計画 該当なし省略

第9節 農用地整備計画

1 区画整理

現況未整備耕地を大区画ほ場に整備すると共に、農地の集団化を図り、農作業効率化と農地集積の促進を目指すものとする。

(1) 区画の形状

(第16表-1)

長辺×短辺 (m)	区画面積 (a)	全体面積割 (ha)	割合 (%)	田面差 (m)	備考
50×40	20	7.5	23.9	1.0m以内	30a以上の区画面積率 76.1% 畑
100×30	30	13.4	42.7	〃	
100×50	50	10.5	33.4	〃	
計		31.4	100		

(2) 表土扱い

(第16表-2)

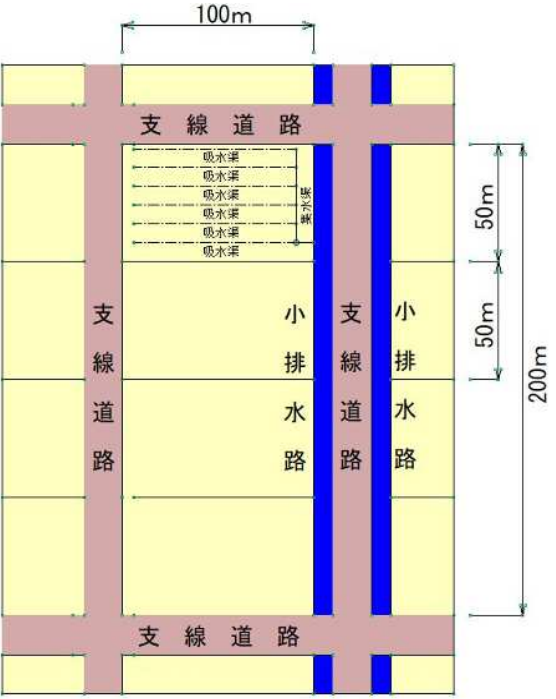
土壌統(区)名	面積(ha)	表土扱い要否の理由	扱い深 (cm)	土量 (m ³)	備考
グライ土壌強粘土構造型	17.5	地力保全	20	35,000	畑
グライ土壌粘土型	13.2	〃	20	26,400	畑
飯崎統	0.7	〃	20	1,400	畑
計	31.4			62,800	

(3) 末端道水路配置図

別紙 計画平面図 参照

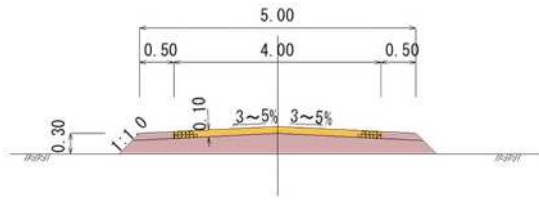
標準構造図

標準区画割図

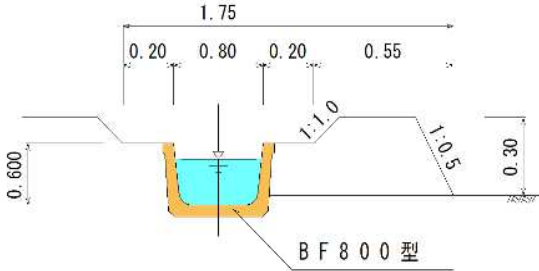


標準構造図

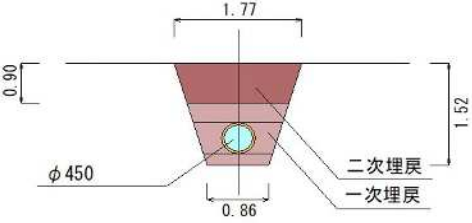
標準断面図 (支線道路)



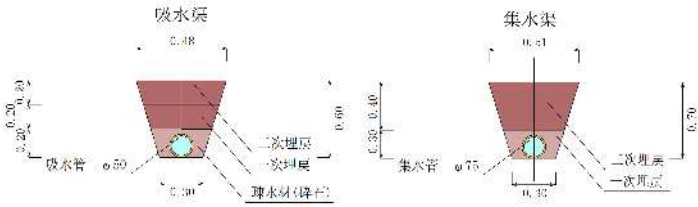
標準断面図 (小用水路)



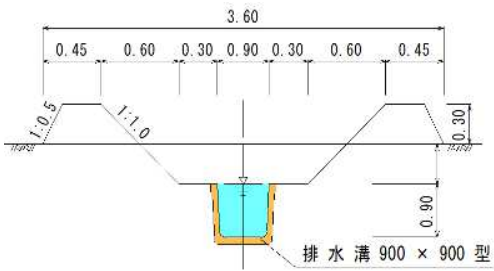
標準断面図 (パイプライン)



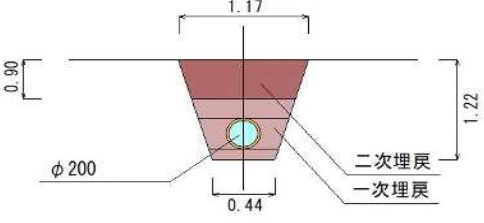
暗渠排水



標準断面図 (小排水路)



標準断面図 (パイプライン)



2 暗渠排水

(1) 暗渠排水

(第16表-3-1)

項目 区分	面積 (ha)	土壌統 (区) 名	基準雨量 (mm/日)	単位排水量 ($\frac{\text{t}}{\text{s}}/\text{ha}$)	計画後の地下 水位 (cm)	集水渠出口以下 の排水方法	備考
畑	17.5	グライ土壌強粘土構造型	30	0.00347	50	集水排水方式	
畑	13.2	グライ土壌粘土型	30	0.00347	50	〃	
畑	0.7	飯崎統	30	0.00347	50	〃	
計	31.4						

(2) 心土破碎 該当なし省略

3 客土 該当なし省略

4 農地保全

(1) 防災林 該当なし省略

(2) 排水工 該当なし省略

(3) 侵食(崩壊)防止工 該当なし省略

第10節 老朽ため池改修計画

1 洪水吐改修計画 該当なし省略

2 堤体補強計画 該当なし省略

3 取水施設改修計画 該当なし省略

第5章 主要工事計画

第1節 用水施設

- 1 貯水池 該当なし省略
- 2 頭首工 該当なし省略
- 3 揚水機 該当なし省略
- 4 用水路

(第17表-4)

項目 水路名	かんがい面積 (ha)	通水量 (m ³ /s)	延 長 (m)			構 造	勾 配	主要構造物	備 考
			開 渠	トンネル その他	計				
小用水路	3.9	0.001~0.139	1,795		1,795	BF水路	1/300	分土工ほか	地区外補償
管水路	31.4	0.001~0.101	2,493		2,493	塩ビ管	-	-	
計	35.3		4,288		4,288				

- 5 その他かんがい施設 該当なし省略

第2節 排水施設

- 1 排水水門 該当なし省略
- 2 排 水 機 該当なし省略

3 排水路

(第18表-3)

項目 水路名	受益面積 (ha)	排水量 (m³/s)	延長 (m)			構造	勾配	主要構造物	備考
			開渠	トンネル その他	計				
小排水路	36.9	0.007~1.281	5,621		5,621	WH排水溝	1/300	合流工ほか	
計	36.9		5,621		5,621				

4 その他排水施設 該当なし省略

第3節 道路及び索道

1 道 路

(1) 道路の総括表

(第19表-1)

項目 区分	路線名	幅(有効) (m)	延長 (m)	構造	付帯構造物			最急 こう配 (%)	同左 延の長 (m)	最小曲線 半径 (m)	備考
					名称	構造	数量 (箇所)				
支線道路	支線道路	5.00 (4.00)	× 4,711	敷砂利 (t=10cm)	暗渠工	HP、BF組合	29	8	—	—	
支線道路	支線道路	3.00 (2.00)	× 295	敷砂利 (t=10cm)	暗渠工	HP、BF組合	2				
支線道路	支線道路	5.00 (4.00)	× 411	AS舗装							既設利用
計			5,417				31				

- (2) 道路主要構造物 該当なし省略
- 2 索道 該当なし省略

第4節 農用地造成

- 1 農用地造成
 - (1) 抜根 該当なし省略
 - (2) 除礫 該当なし省略
 - (3) 開墾作業 該当なし省略
 - (4) 地目変換 該当なし省略
 - (5) 末端用水路等 該当なし省略
 - (6) 末端排水路等 該当なし省略
- 2 土壤改良 該当なし省略

第5節 洪水調節施設

- 1 貯水池 該当なし省略
- 2 頭首工及び導水路
 - (1) 頭首工 該当なし省略
 - (2) 導水路 該当なし省略

第6節 干拓施設

- 1 堤防 該当なし省略
- 2 潮止め 該当なし省略
- 3 付属施設 該当なし省略
- 4 埋立 該当なし省略

第7節 農用地整備施設

1 区画整理

(1) 区画整理

(第23表-1)

工 区 名	面 積 (ha)	整 地 工		表 土 扱 い		備 考
		標 準 区 画	運 転 時 間 (hr)	面 積 (ha)	土 量 (m3)	
農山村地域復興基盤総合整備事業 (農地整備事業)	31.4	50a	-	31.4	62,800	計画地目・畑

(2) 末端用水路

(第23表-2)

区 分	項 目	数 量	規 模	構 造	備 考
小 用 水 路	管 水 路	1,795 m	BF300~BF800	BF水路	
	管 水 路	2,493 m	VUφ250~VUφ450	塩ビ管	

(3) 末端排水路

(第23表-3)

区 分	項 目	数 量	規 模	構 造	備 考
小 排 水 路		5,621 m	WH300×300~1,400×900	WH排水溝	

2 暗渠排水

(1) 暗渠排水

(第23表-4-1)

項目 区分	面積 (ha)	集水渠				吸水渠						集水渠出口以下の排水施設			備考
		勾配	管種	管径 (mm)	延長 (m/ha)	勾配	管種	管径 (mm)	深さ (m)	間隔 (m)	延長 (m/ha)	名称	構造	数量 (m/ha)	
グライ土壤強粘土構造型	17.5	1/500	ポリ管	75		1/500	ポリ管	50	0.6	10		小排水路	WH排水溝		
グライ土壤粘土型	13.2	1/500	ポリ管	75		1/500	ポリ管	50	0.6	10		小排水路	WH排水溝		
飯 崎 統	0.7	1/500	ポリ管	75		1/500	ポリ管	50	0.6	10		小排水路	WH排水溝		

(2) 心土破碎 該当なし省略

3 客土 該当なし省略

4 除礫 該当なし省略

5 農地保全

(1) 防風林 該当なし省略

(2) 排水路 該当なし省略

(3) 侵食防止工 該当なし省略

第8節 老朽ため池改修施設

1 貯水池 該当なし省略

2 堤体補強施設

(1) のり面保護施設 該当なし省略

(2) 漏水防止工 該当なし省略

第6章 附 帯 工 事 計 画

該当なし省略

第7章 工事の着手及び完了の予定時期

着工予定	令和 7 年度
完了予定	令和 12 年度

第8章 環境との調和への配慮

1 配慮創造の区分

環境創造区域

2 本地区で配慮すべき動植物

ホトケドジョウ、ドジョウ、モノアラガイ

3 環境創造の方法

当地区周辺は環境創造区域に指定されていることから、本事業においては、事前調査に基づき、周辺の排水路に自然環境排水フリームを計画し、小動物や生物の生息環境への配慮措置を実施する計画とした。

第9章 換地計画の概要

第1節 換地計画を作成する上での基本的な考え方

本地区は、双葉町の西部に位置し、地区を東西に縦走する県道井出・長塚線及び二級河川戎川に展開する圃区を中核に、北方から形成される水田地帯である。現況耕地は未整備にて、概ね10a区画程度となっているが自己整理も多く見受けられ20a程度を有する耕地もある。農道は2.0mと幅員が狭く、用排水路は兼用かつ素堀のため、施設の維持管理に多大な労力を費やし、農業基盤としての圃場条件は極めて低い状況にて農業経営が行われている。

よって、本事業により区画の整理を行うとともに道路の整備、用排水路の分離・装工により耕地の汎用化を図り、併せて育成すべき経営体(生産法人)を中核とした農地の集団化・利用集積を一体的に実施するものである。以て、土地利用型農業を基盤とした、機械の大型化と効率的な運行、高生産性かつ効率的な営農を実現し、地域農業の振興・発展に寄与するものである。

したがって換地計画を作成するにあたっては、事業の目的達成と集落営農の推進のため、農地の流動化と集団化を促進するなど、農業構造改善に資する換地計画の作成を基本方針とする。

第2節 換地区の設定

1 換地区の名称、所在、面積

(第25表-1)

換地区名	換地区の所在	面積 (ha)
全工区 (換地区は設定しない)	双葉郡双葉町大字下羽鳥字豊田、字南札立場、字益田、字南菅町、字南迫、字北沖、字朴迫、字台大字長塚字上迫、字北目、字原田、字越田	36.9

2 換地区を設定する理由

該当なし

第3節 換地計画樹立の基本方針

1 従前の土地の地積基準

(第25表-2)

換地区名	地積の基準
全工区	換地交付の基準とする従前の土地の地積は、土地改良事業計画決定の日の登記簿地積とする。ただし、上記の日から3ヶ月以内に測量士、測量士補または土地家屋調査士の測量した実測図及び隣接所有者の同意書を添付して申し出のあった場合は、その申し出のあった地積とする。
	地目・用途の基準
	従前の土地の地目は、土地改良事業計画決定の日の登記地目とし、用途については、土地評価により決定する。

4 非農用地の換地方法

(第25表-5)

該当なし省略

第4節 土地の評価及び清算の方法

1 評価の方法

標準地比準方式により評価委員が評価する。

・評価は、評価委員が土地評価項目の案を作成し、受益者による会議で承認された土地評価表により行う。

2 清算の方法

増価額比例地積清算方式によって行うものとする。

・清算は従前地の総価額と換地の総価額との差額(増価額)を従前の地積に比例して交付し、従前の土地の価額と増価額を合計し換地交付基準額を定め換地の価額との差額を徴収または交付し清算する。

第5節 換地計画樹立の年度計画

(第25表-6)

区分 換地区名	一時利用地の指定予定年度	換地計画の認可予定年度	換地処分予定年度	備考
全工区	令和9～11年度	令和12年度	令和12年度	

第6節 換地処分の時期に関する特則

本地区については、地区の全部について区画変更工事が完了し、確定測量が行われたときは土地改良法第89条の2第10項により準用する同法第54条第2項の本文の規定ただし書きに基づき換地処分を行うことができる。

第 10 章 事業費の総額および内訳

総 額 1,033 百万円 (地方事務費含み 1033 百万円)

(第26表)

種 目	全 体		農山村地域復興基盤総合整備事業 (農地整備事業)		農業経営高度化支援事業		備 考
	事業量	事業費	事業量	事業費	事業量	事業費	
工 事 費	31.4 ha	733 百万円	31.4 ha	733 百万円		百万円	
内 容	区 画 整 理	31.4 ha	641	31.4 ha	641		
	か ん 排	m		m			
	暗 渠 排 水	31.4 ha	92	31.4 ha	92		
	客 土	ha		ha			
	附 帯 工	式		式			
生 活 環 境 整 備	式		式				
測 量 試 験 費	1 式	128	1 式	128			
用 地 補 償 費	1 式	50	1 式	50			
営 繕 費							
全 体 実 施 設 計 費	ha		ha				
換 地 費	1 式	39	1 式	39			
工 事 雑 費	式		式				
小 計		950		950			
農 業 経 営 高 度 化 支 援	1 式	83			1 式	83	
内 容	指 導 事 業	31.4 ha	3		31.4 ha	3	
	調 査 ・ 調 整 事 業	31.4 ha	9		31.4 ha	9	
	高 度 経 営 体 集 積 促 進 事 業	31.4 ha	71		31.4 ha	71	
小 計		1,033		950		83	
地 方 事 務 費							
合 計		1,033		950		83	
助 成 対 象		1,033		950		83	営繕費・工事雑費・地方事務費を除く

第 1 1 章 効 用

(第27表)

事業名	項目 区分	全 体			農山村地域復興基盤総合整備事業 (農地整備事業)						備考
		年総効果額 (便益額)	年増加農業 所得額	現況年総 農業所得額	年総効果額 (便益額)	年増加農業 所得額	現況年総 農業所得額	年総効果額 (便益額)	年増加農業 所得額	現況年総 農業所得額	
農地中間管理機構関連農地整備事業	作物生産効果	千円 31,557	千円 9,179	千円 -	千円 31,557	千円 9,179	千円	千円	千円	千円	
	営農経費節減効果	97,606	104,227		97,606	104,227					
	維持管理費節減効果	△ 5,318	5,126		△ 5,318	5,126					
	国産農産物安定供給効果	1,236	-		1,236	-					
	耕作放棄防止効果	0									
	非農用地創設効果	0									
	計	125,081	118,532		125,081	118,532					

《補足》

総費用 1,983,050 千円
総便益額 2,227,765 千円

総費用総便益比 = 2,227,765 / 1,983,050 = 1.12 (> 1.00)

年償還額 - 千円
現況年総農業所得額 10,303 千円

総所得償還率 = - / 10,303 = - (≤ 20%)

年償還額 - 千円
年増加農業所得額 118,532 千円

増加所得償還率 = - / 118,532 = - (≤ 40%)

第 1 2 章 関 連 す る 事 業

該当なし省略

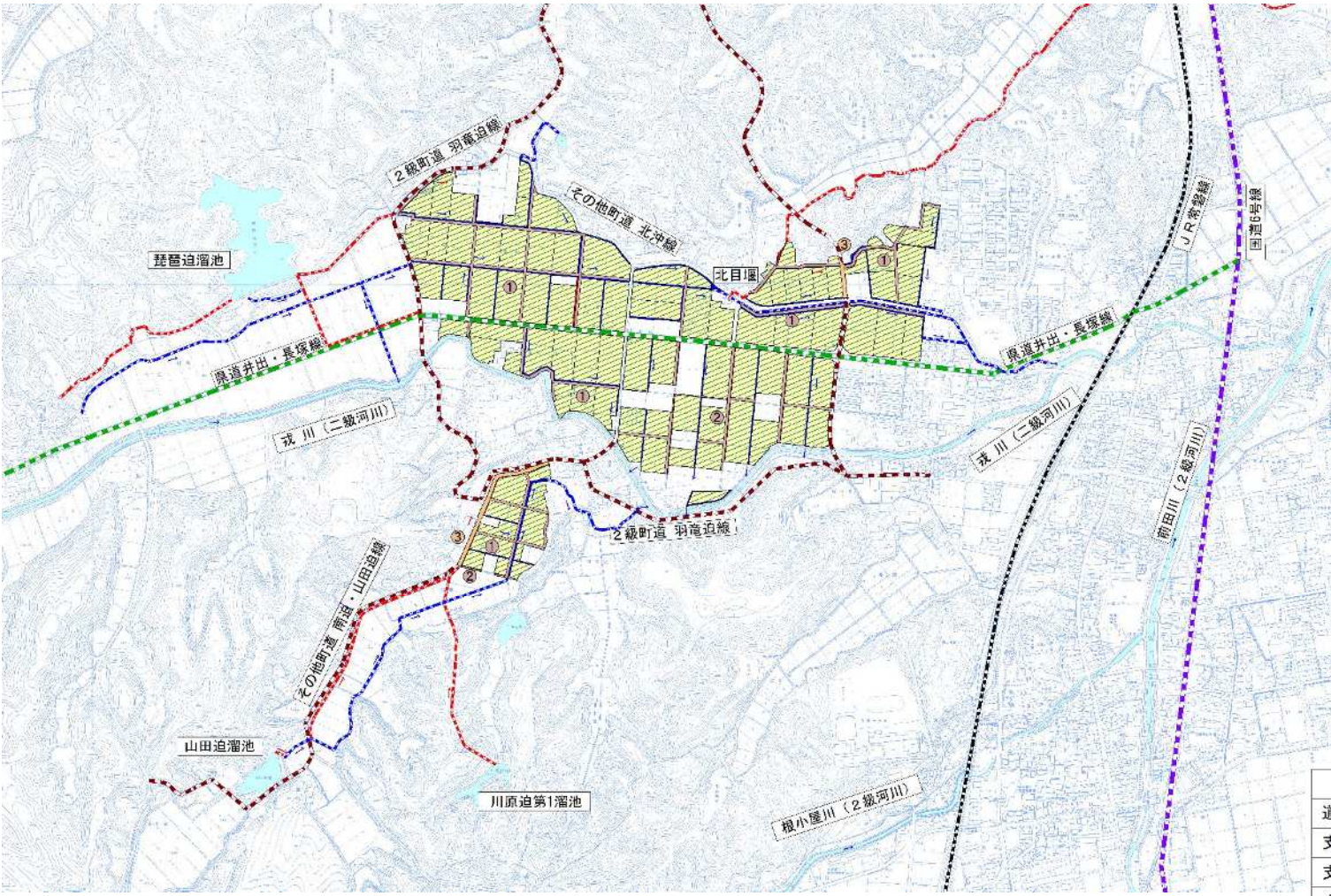
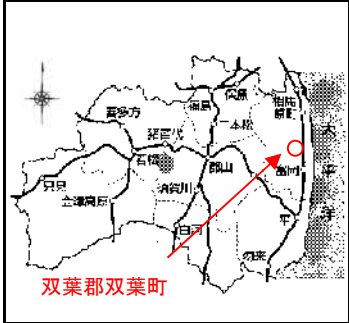
第 1 3 章 現 況 ・ 計 画 図 面

1 計画平面図

計 画 一 般 図

しもはとり
福島県 下羽鳥 地区

位 置 図



凡 例	
	地区界
	畑 31.4ha
	暗渠排水 31.4ha
	支線道路(A S)
	支線道路(砂利)
	小用水路
	小排水路
	河川、ため池
	鉄道
	国道
	県道
	町道
	既設用水路
	既設用水路

凡 例					
道路区分	番号	幅員	有効幅	構造	備考
支線道路	①	5.0	4.0	敷砂利	
支線道路	②	3.0	2.0	敷砂利	
支線道路	③	5.0	4.0	A S	既設利用